

平成 24 年度庭野平和財団助成活動報告書
アジア太平洋平和慰霊祭及び平和フォーラム
今泉光司

活動目的

アジア太平洋国際平和慰霊祭および平和フォーラムは、アジア太平洋戦争に巻き込まれたすべての国の人々と世界中の人々に開かれた集いです。アジアの国々の戦争を知らない世代同士が集い、戦争でなくなったすべての犠牲者のために祈り、そしてそれぞれが教えられた戦争を語り合い、互いの視点を学びあって未来の新しい関係を築いていく場を創造することを目的としています。それぞれの国である戦争中に何が起こったのか、あの戦争がどのような影響を及ぼしたのかを語り合い、違った視点からの戦争観を共有し合います。また誰からどのように戦争を教えられたのか。またそれぞれの国の放送や映画ではあの戦争をどのように語り継がれてきたのか、出来るだけ個人の体験を話してもらい、立場の違う意見や考えを共有しあいます。

また日本語と英語の完全収録版の報告書を作成し、参加者たちそれぞれの社会で共有してもらい、人々の興味を喚起しながら次のアジア太平洋国際平和慰霊祭に続けて行きます。

活動内容

- ①太平洋戦争の体験者が亡くなって行く中で、後世に語り伝えるべく、まだ生きている戦争体験者にビデオインタビューをして記録を残します。
- ②またそれらの記録されたドキュメンタリーや戦争の事実を描いた映画などを上映する平和映画祭を開きます。
- ③12月8日の大東亜戦争開戦の日に、戦争の犠牲になったすべての犠牲者のために祈る慰霊祭を開催します。
- ④アジア各国の戦争を知らない世代が集まって、戦争体験者の話や、加害国の人々の話し、戦争に巻き込まれた多くの国の人々の話を語り合い、共有しあって、あの戦争がどういう戦争だったのか、また戦争とはどういうものなのかを考え学ぶ場を提供する。

2012 年

- 9月 カパンガン村に疎開した中国人社会のビデオ取材、及びカバヤン村で起きた日本軍住民虐殺のビデオ取材、及び元名誉領事カルロス寺岡氏のビデオインタビュー取材。
 - 10月 昨年の報告書を配布し今年の慰霊祭を宣伝する。
 - 11月 慰霊祭及びフォーラムの準備作業。
 - 12月7日午後フィリピン大ギャラリーにて
プレイベントの平和映画祭
 - 12月8日午前キャンプジョンヘイにて
第3回アジア太平洋国際平和慰霊祭
 - 12月8日午後フィリピン大ギャラリーにて
平和フォーラム①
 - 12月9日午後フィリピン大ギャラリーにて
平和フォーラム②
- 2013年6月日本語版報告書データ送信及び日本にて300部送付。
- 7月8月英語版報告書データ送信及びバギオにて200部配布
- 9月10月 日本及びフィリピンにて配布活動を続ける。

方法と実施経過

9月フィリピン大学ジミー・フォン教授に通訳をお願いし、戦時中バギオからカパンガンに疎開した中国人にビデオ取材を行った。教授の車両にて日帰り取材。また同じくジミー・フォン教授の通訳で、カバヤンにて戦時中に日本軍により虐殺された住民に関する取材を1泊2日で行う。同ビデオは平和フォーラムにて教授の説明と共に上映した。また元日本名誉領事カルロス寺岡氏のパンガシナンの自宅に日帰り行き日本語でビデオ取材を行った。寺岡氏は近年戦争当時の話などの取材に応じなかったのだが、今回は快く応じてくださった。

1941年12月8日、大日本帝国軍はハワイ真珠湾奇襲攻撃の数時間後にフィリピン・ルソン島北部山岳地帯の町バギオにある米軍キャンプ・ジョンヘイとクラーク米空軍基地を空爆し、

フィリピンにおける太平洋戦争・大東亜戦争が始められた。アジア太平洋国際平和慰霊祭は、戦争が始められた12月8日に、空爆された場所であるバギオのキャンプ・ジョンヘイにて、戦争に巻き込まれたあらゆる国々の人々が一堂に会して行われた。2013年の慰霊祭はフィリピン大学に協力を依頼し、慰霊祭のほかに国際平和フォーラムを開催することが出来ました。共同主催者は前回同様バギオ市のマウリシオ・ドモガン市長、ベンゲット州立大などで教鞭をとる社会活動家ベティ・リスティノ（リサーチメイト代表）、同じくNGO主催者のマリー・バラング（S.E.E.D.代表）、今泉光司（NPOサルボン代表）、そして今回はフィリピン大学バギオ校のレイムンド・ロビリョス学長とコミュニケーション学科主任のジミー・フォン教授が、前回の報告書を持参して協力を依頼したところ快く引き受けてくださいました。

慰霊祭に先立ち、前日の7日にフィリピン大学ギャラリーにて平和映画祭を開催。翌8日午前中に元米軍キャンプ・ジョンヘイの司令官公邸の庭である花の庭園、ベルアンピシアターにて国際平和慰霊祭を開催。その午後と翌日の午後の2日間にわたって、フィリピン大学バギオ校ギャラリーにて国際平和フォーラムを開催しました。

平和映画祭では太平洋戦争に関するドキュメンタリー映画を2本上映しました。参加者は30名ほどでした。1本は日本のNHKが昨年制作したドキュメンタリー「戦場の軍法会議」です。（今泉がコーディネイトした作品で上映許可をもらっています。）これは戦時中にフィリピンに従軍した海軍の法務官が密かに日本に持ち帰った公式記録文書を、関係者が他界した後には公開してもかまわないとしてある歴史家に託した。歴史家はその後法務官に14時間に及ぶインタビューを行い、今回その録音テープと共にNHKに持ち込んだ。戦争末期、大日本帝国軍は食料不足のため、食料調達に前線を離脱する兵隊が後を絶たず、軍は軍法会議を行い見せしめに処刑をしていた。それでも離脱するものが後を絶たず、おびただしい数の兵隊が軍

法会議もかけずに上官に戦場で処刑されていたのだった。このことは以前から取りざたされてはいたが、終戦時に公式文書はすべて焼却されてしまったために証拠がなく、明らかにされなかった。今回NHKは公式記録文書を入手し初めてその事実が明らかにされた。

もう1本の映画は地元ベンゲット州の山岳民族の若者たちが自主制作したドキュメンタリー映画。戦争末期、北ルソンに敗走して来た日本兵を迎え撃って戦ったのは、米軍により召集された山岳民イゴロットのゲリラ部隊だった。これまでフィリピン史から取り残され蔑視されてきた山岳民イゴロットの若者たちが、試行錯誤しながら自主制作したドキュメンタリードラマの力作でした。

そして翌日8日の**国際平和慰霊祭**は午前9時からフィリピン大学前からジープとトラックで参加者を送迎し、式典は10時から開催された。最初に主催者のひとり今泉光司が、戦争が終わって67年経ったが、あの戦争に世界23カ国が巻き込まれ2100万人が尊い命を落とした。なぜあのような戦争が起こされたのかを学ぶ決心をした、と挨拶した。

続いて全員でろうそくをともし、花を祭壇にささげ、この慰霊祭のオリジナルテーマソング「手を開いて」（作詞作曲ジョーイ・アヤラ）を、地元歌手センドンと共に歌った。今年もバギオ戦後初代の女性市長バージニア・デギア（96）さんが最初に挨拶し、息子で映画監督のキドラット・タヒミック氏が両親の結婚話を披露。ここジョンヘイが日本帝国軍に空爆された時に、戦争が始まるから家に男手がいたほうが良いということで、キドラットさんの父は母の両親から結婚を許された。翌年にキドラットさんが生まれたという。なんと日本軍の侵略によりキドラット・タヒミック氏が生まれた。戦争は時には意外なものを生むものだ、と楽しい話をしてくれた。毎年ほぼ同時期に開催されるバギオのビッグイベント、バギオカントリークラブ・ゴルフトーナメントのホストでもあるドモガン市長は欠席で、今年も代理出席でした。秘書のラファエル・タノボイさんが、お父さんが

日本兵に拷問され、木に吊るされていたのを母が助けて九死に一生を得たと言う話をしてくださいました。戦争を始める理由は、土地や資源や人々を奴隷にすることにあるのですが、今日そのことや平和の意味を教えてくれる人々や団体があり感謝したいと述べた。フィリピン大学のジミー・フォン教授は、戦争を学ぶことにより、どのように社会に、個人に、国に平和を生み出すことができるか、を学ぶことができる。実りある進歩的な人生を送るためにも平和が必要だと述べた。

今年九州産業大学文化人類学の森谷裕美子教授をはじめ日本から 10 人のゲストが参加しそれぞれ自己紹介をした。大阪から来た在日韓国人の郭理恵さんは、2 年前にバギオに来たときに戦友の慰霊に来ていたある日本帝国軍の退役軍人が、私が在日韓国人ということを知って彼女にしきりに謝ったという。なぜ誤るのですかと聞いてもただ誤るだけで、二人で泣いたそうです。その退役軍人は昨年なくなりました、と郭さんは小さな声で話してくれました。

井上慎介さんの祖父は兵隊としてフィリピンに来る途中米軍の潜水艦に撃沈され、マセバテ島という島に泳ぎ着き、マニラ、セブと従軍して日本に帰還しましたが、2007 年になくなるまで祖父がフィリピンに従軍したことを知りませんでした。死んだ人たちの霊は敵味方なく皆同じところにいます。彼らのことを思い、考えることで心と魂を安堵させてくれます、と話してくれました。

コーヒー豆農家のカウイリさんは、5 歳のときに米軍の空爆で山が燃え、たくさんの死体が散らばっているのを観て恐ろしく、また悲しかったと話した。

歌手センドンが閉幕の歌。山岳民が蟻のように協力して生きていく様子を歌ったカンカナイ族の歌を歌い閉幕した。参加者は 120 名だった。

平和フォーラム

フォーラムに参加する人々はフィリピン大学に戻り、参加者にはカンティーンにて昼食を

供し、午後 2 時から開始。

フィリピン大学バギオ校歴史学 マリア・ネロ・フロンド教授のお話の要約

平和フォーラムなので平和な時から始めましょうと言ひ、1600 年代からルソン北端のアパリや西岸のラウニオンにはすでに 200 人のもの日本人が来ていたと話した。1905 年に完成した米軍の山岳道路ケノン道路は日本人開拓者が大勢参加して建設された有名なもの。そのほかにも橋や大型建設物など多くの建築物に日本人技師が参加していた。バギオの中心街には何軒か日本人商店が並び、日本人学校や病院、ホテルなどもあり多くの日本人移民が生活していた。バギオ日本人の華麗な歴史は、セシル・アフアブレ著「ジャパニーズ・パイオニア」に多くの写真付きで詳しく著されています。

しかし 1941 年から 1945 年までは日本帝国軍の対米戦争に巻き込まれ、悲惨な運命に引きずられてゆきました。フロンド教授は話の前に、いったいどのくらいの時間が経てば歴史家がその出来事を解釈することができるのか。歴史家は差しさわりのないにおおよその出来事を伝えます、と先にことわった。戦争により日系人たちがそれまで行ってきたすばらしい記憶がすべて台無しになった。東南アジアの国々はいったんは反西洋列強の日本（大東亜共栄圏構想）に追随し、自治権の獲得を期待したが、その声はことごとくトーンダウンして行った。果たして日本人は何を目的としていたのか？リカルド・ホセ歴史学教授（比大デリマン校）は、フィリピンに米軍基地がなかったとしても日本は東南アジアの資源が必要で、フィリピンは大戦前から戦略上重要な位置にあった。日本はインドネシアのオイルや東南アジアの鉱物資源が必要で、それが戦争目的だったと言ひます。日本の歴史家池端セツオ氏は「他の東南アジアの国々に比べて日本軍のフィリピン占領は、人・物両方の破壊の見本のような」とフィリピン政府に提出した戦争犠牲者の報告書に書いている、という。

2010 年 8 月にバギオ地元新聞は 15 年間日本名誉領事として活躍し退官されたバギオ日系

人会代表のカルロス・寺岡さんを「日比の架け橋の強い絆を補強した人物」としてその功績を称えた。とフロレンダ教授は最後に述べた。

ベティー・リスティノさん（プロデューサー）
イゴロット山岳民の米軍 66 歩兵隊のドキュ映画（一部）上映とおはなし。（7日の平和映画祭で同映画を上映）

リスティノさんは退役軍人に取材してこの映画を製作した。日本軍に武装抵抗したのはフィリピン軍とフィリピンスカウトでした。フィリピン軍は当時支配していたアメリカのコモンウェルス政府の支配下にあった。フィリピンスカウトはアメリカの司令官がいます。この2つの武装集団はバターン陥落後に出てきた。バターンに行って戦うように言われた日から、多くの人々が「レジスタンス・抵抗運動」と言い始めた。彼らがバターン（死の行進）から逃げたときから武装レジスタンスが始まったのではないかとリスティノさんは言います。それを説得・指導したのがベンゲットのビジネスマンだったバド・ダンワ。何故戦わなければならないのかをバド・ダンワに説得された。それは皆が日本人を判断するのに役立った、と言う。

彼らは日本軍の残虐なことを経験し、抵抗することを学んだ。ゲリラになった理由を聞くと、父が日本兵に殺された、兄が行方不明など親族の被害が挙げられ、次にバド・ダンワを挙げ、アメリカに対する忠誠を言う人はいなかった。

そして彼らはゲリラに参加し武器を取って戦った。それを支えたのは米軍の歩兵隊と市民の食糧供給支援でした。1942年から44年は主にメンバーの勧誘と情報収集。また大統領夫人オスメニア家族の逃避行を手伝いました。そして44年後半からは彼らがバギオを開放し、ゲリラだけでベサン峠で戦い貫きました。

北ルソン・コルディリエラの人々にとってイゴロット・ゲリラは大変重要な働きをし、遺産を残した。イゴロットゲリラはわれわれイゴロットの誇りです、とベティー・リスティノさんは話した。

トーマス・カウリさんの意見

戦争当時日本人は敵でしたが、今は一番の友達です。最良の友人には何かをあげるでしょう。日本は今私たちに開発資金を送ってくれています。ベンゲット病院など、まだまだたくさんありますが、日本政府からもらいました。彼らは今は私たちのベストフレンドなんです。

竹本康広さん、バギオ長期滞在中の俳優の話と歌「戦争を知らない子供たち」

私は体験としての戦争は知らず、知っているのは広島と長崎の原爆被害の大きさだけでしたが、フィリピンに来て日本が犠牲者のみならず加害者だったことを知るのには悲痛なことでした。私たちはもう一度あの戦争が何だったのかを受け止めなくてはならない。この歌は戦争を知らずに育ってしまったと言う負い目を歌った歌でもあります。と挨拶し、ギターを弾きながら「戦争を知らない子供たち」を声を上げさせながら歌った。

地元歌手センドンが、私たちのオリジナルテーマソング「手を開いて」を歌う

ヒルダ・タダオアンさん、日系2世のお話

（父の日本人苗字は日本軍総司令官、山下大将と同じヤマシタだったが非親族）

娘オリーブさんが代わりに原稿を朗読の要約

ヒルダさんの弟のジョン・マサノブさん（日系比人）は日本帝国軍の通訳として従軍させられ、フィリピン人ゲリラの襲撃に会い殺されました。父、山下徳太郎は1904年に福岡県からケノンロード建設に来た。徳太郎は建築家兼イギリス国教会アングリカンの聖職者でもあった。多くの教会や学校などを建て、自分の立てた教会でサガダ出身の母と結婚し、9人の子供をもうけ、ヒルダさんは6番目でした。父が脳出血で倒れ、1938年に亡くなった。

戦争中サガダの町は爆撃され、父が建設した教会や学校は破壊された。日本軍とゲリラの戦いが始まり、家族はどちらからもスパイの疑いをかけられ、いつも恐怖の中にいた。日本兵はスパイの疑いがあるだけでフィリピン人を殺した。やがて日本軍はサガダに駐留し、母は日本軍との交渉役をさせられた。

戦争が終わっても山下家族は帝国日本軍山下大将の子孫だと疑われて迫害を受けた。山下という名前のために学校に行けず、それでもがんばって高成績を取り、自分を嫌う先生や友達たちに尊敬されるように努力をして特待生になった。教員になったが教育長に山下という名前を持つものは雇わないと言われ、結局僻地に左遷させられたが、これまでの功績を知る人々の助言により助けられたという。戦後日系人のほとんどが迫害を受けて来た。山下という名前を持つ者はなおさらだった。いつも人々に嫌われ、いじめられ、差別された。日本から来たシスター・テレシア海野さんが日系人たちを助け、また日本政府が様々な援助をしてくれたおかげで、やがて日系人もいじめられないようになった。

しかしフィリピン政府は私たちを日本人だと言い国籍をくれないので無国籍だ。学生たちはヒルダさんの話に感動して、講演後に写真撮影会が始まった。

台湾の環境団体代表トウンジェ・ウーさんのお話の要約

「もし日本がフィリピンをもっと長く植民地統治したら、フィリピンはもっと強い国になっていたことでしょう。賛同しますか、しませんか?」「台湾人は日本人と中国人を愛する、と誰かが言っているかもしれませんが、これは難しい問題なんです。」とウーさんは話を切り出した。大日本帝国が台湾を統治したのは1895年から1945年までです。それ以前は清王朝の一部でしたが、以降は台湾名は禁止。皆日本名を名乗らなければならなかった。

戦争に関する2つの課題、ひとつは慰安婦問題。もうひとつは徴兵されて戦場に送られた兵隊。何故日本が台湾を占領したか?小さいけれども中国に近く絶好の供給基地。日本は台湾をジャンプ台に使って戦争をした。1945年以降は蒋介石が台湾を支配したが、日本のほうがまだましでした。

台湾で日本に関する人気のある映画が2つ。ひとつは灌漑設備を作った日本人技師の映画。

もうひとつは戦争中日本兵に反逆して300人の日本兵を殺した台湾山岳民族の映画。日本政府は私たちに教育を施し、良い事をたくさんしてくれましたが、台湾人に日本人が好きか嫌いかと聞かれると難しい問題です。

(司会者)50年も日本に支配されたんですか?フィリピンは5年足らずですが。

(ウーさん)台湾は日本のみならず、アメリカからも支援されています。アメリカは中国本土に入る前に台湾がほしかった。今は中国が台湾をジャンプ台に使っています。

NPO ブリッジフォーピース制作のビデオ上映、内容; 日帝軍に殺された人の遺族や虐殺から生還したフィリピン人へのインタビューと、フィリピンに従軍して殺人や虐殺、略奪、強姦などをした元日本兵へのインタビュービデオ。30分。

現ブリッジフォーピース会員、川崎松男さんのお話の要約

私が心配しているのは今また日本が戦争を起こせる国にしようと考えている政治家が増えていること。二度と戦争をしない、武器を持たないと書いてある日本国憲法9条を変えてはいけない。ビデオで日本の退役軍人が激しい悔恨の情を現していました。私たちは彼らのメッセージを記憶しなければならない。

今泉

戦後日本は新しい憲法を持つ新しい国に変わりました。しかし戦後新憲法の日本人は帝国憲法の日本人が戦時中にやったことに向き合おうとせず、学校教育でも太平洋戦争の歴史を教えようとしません。歴史を知らない日本人は中国や韓国人と話が出来ず、関係はますます悪化しています。私は戦後世代の、私たちの新しい関係を作るためにこのフォーラムを企画しました。

レア・レポレドさん、リサーチメイトスタッフ

ビデオレポートにとっても感動しました。この年配の元日本帝国軍人たちを見るととても傷つきやすく、私は殺しました…と告白していま

す。それは何か精神的な覚醒のようでした。この老人たちがまっすぐ前を見て「私の話を聞いてくれてありがとう」と言った。…それは何か、日本の社会がこのことを打ち明けたような、そんな気がしました。ドイツでは人々が虐殺を教えられていて、だから若い世代も、次の世代からその癒しが始まります。それは私の心を祝福し、私は未来に平和の希望を見出せます。歴史のある日本の、年老いた紳士たち、退役軍人たちが、自分たちが行ったことを認めて告白しています。私たちはフィリピン人を代表してその謝罪を受け入れます。と言葉を選びながらゆっくりと誠実に語ってくれた。

夕食後にドキュメンタリー映画鑑賞、NHK スペシャル「戦場の軍法会議」英語版

フォーラム 2 日目

ブリッジフォーピースのインタビュービデオ
上映（観客は昨日とは違います）

今泉

日本にはまだ戦争に関った人が生きてるので戦争のことを話しません。フィリピンで何が起こったのか、山下奉文（ともゆき）が誰かを日本人は知りません。私は 17 年もここでボランティア活動をしています、私もはじめ皆が話しているジェネラル山下が誰のことかわからなかった。それで私たちは戦争のことを何も教わっていないことに気が付いた。

学生

私は高校時代に奨学金をもらって日本に留学しましたが、日本の学生は戦争のことを本当に何も知りませんでした。

ジミー・フォン、フィリピン大教授

何…？未だに？（少し興奮気味）…そんなこと教科書に含まれていないの？ 以前韓国が日本の教育省に教えるように要求していましたが、未だに改訂していないの？…。（何度も言っていたのに今やっと理解したようでした）

日本人参加者

私たちは何が本当の事かわからないんです。
小国秀宣さん、日本人会

日本ではまだ戦争の評価が定まっていない。

大学入試に出ないので学校で教えない。戦争を体験した日本人の多くは精神的に病んでいきます。戦った日本兵も何かを言いたいのだと思うが、まだ生きている関係者がいるから言えない。

ジミー・フォン教授

フィリピンは日本の観点からは重要じゃないんです。アメリカは米比戦争の歴史を抹消し、歴史に米比戦争はなかったことになっている。日本も同じ。それは日本の観点（視点）であり、独自の歴史…???と疑問を投げかけた。

ドクター、チャールズ・チェン（84）のお話。 バギオ中国人コミュニティ

この慰霊祭とフォーラムは歴史的な出来事です。ひどく虐げられた膿の感情を癒すためのものです。中国人はいつも歴史から排除されてきたが、中国人なくしてバギオの歴史は語れません。大半の中国人は広東州マカオから来たからバギオはマカオと呼ばれた。福建から来た人はアモイ港から来たのでアモイと呼ばれた。多くはいずれ故郷に錦を飾るために出発前に職業訓練されてきた。だから故郷によって職業が違ふ。家族も中国にひとつこっちにひとつ。華僑はそうやって成功するように送り出されてきた。

中国は清王朝が退廃し、戦士たちが領土を奪い合い。征服者と呼んだ 8 つの西洋列強国が中国を烏合の衆に変えて分割を始めた。ちょうどスペインがフィリピンで行っていたことと同じ。フランスはベトナム・カンボジア・ラオスを取り、インドシナと言った。ポルトガルはマカオを取り、イギリスはアヘン戦争を起こし、香港、カオルン、九龍半島を取った。ドイツは青島、ロシアはモンゴルを、オランダは台湾を取った。アメリカは上海を、そしてアジアの日本が満州を取った。こうして中国のみならず世界中が植民地に分割された。強国は産業革命があり工業化しどんどん原材料が必要になった。植民地から原材料を搾取し、工業製品を植民地に売る。日本はアジア唯一の工業国で東南アジアの原材料が必要だった。そして中国の実際 4 分の 1 は日本に占領された。大日本帝国のスコ

ーガンは「アジア人のアジア」と言い、多くの中国人が賛同し日本に協力した。蒋介石ですら日本で学び日本に賛同した。日本に占領させておいて後で交渉しようとした。毛沢東は日本と戦った。日本の人気は下火になった。日本のスローガンはすばらしかった。しかし残忍な行為が中国を変えさせた。

(バギオの) ケノンロードは中国人と日本人が協働して作ったのに誰も中国人のことを話さないのは不公平だ。中国人なくしてあの道路は出来なかった。アトックの中国人農夫は日本人から科学農業を学んだと言う。そして中国人が種をたくさん持って来て農業を伸ばしアメリカ人に売るサラダを栽培した。

バギオの中国人は本国の親戚と連絡を取っていたから日本軍の残虐性を知っていた。日本軍のルールをボイコットする組織を作った。アメリカ軍は日本が戦争を準備しているのを知っていて知らないふりをした。日本人はもっと哀れみ深くなるべきで、中国人は日本人と協力して西欧人を皆追い出すべきだった。

バギオに今も残っているバヤニハンホテルで多くの中国人が拷問されて殺された。私はマーケットで姉に連れられていて、日本兵が数人のフィリピン人を見せしめに虐殺するのを見た。一人は首を切られ、二人目は銃剣で刺され、三人目はマシンガンで撃たれた。日本の退役軍人は良心の呵責に苛まれている。彼らのその呵責が解消できたら私たちも心を晴らすことが出来る。私たちは許しましょう。しかしいったい何度私たちは日本を許してきたことか。

私が忘れられないすばらしいドキュメントは、1943年10月14日のフィリピン共和国除幕式だった。パレードで4人の美しいドレスのフィリピン女性が護衛に案内され、トランペットの音色に乗せて国旗掲揚したときのすばらしさ。フィリピン国旗掲揚は日本時代に行われた。そしてその後バギオはアメリカ軍に爆撃されフィリピン人が死んだ。米兵はバギオに来なかった。日本兵は死んでなかったから。バギオはフィリピン人の死体でいっぱいだった。バギオの歴史は中国人なしでは語れない。私はバギオ

で生まれ、バギオで死にます。(拍手)

(質問1)バギオに反日活動はありましたか？

(ドクターチェン); たくさんいました。金持ちは何処かに隠れて、中産階級はゲリラに参加し、貧乏人はただじっとしていた。

(質問2、日本人青年): 私は日本は共産主義に反対して戦争を始めたと思っていた。ドイツに先導された共産思想はロシアと中国に行った。米の政治家は共産主義者だったから日本に共産主義の憲法を与えた。中国人のあなたはどう思いますか？なぜなら共産主義が天皇制の最大の脅威だったから。

(ドクターチェン); 日本は大東亜戦争を始めた。なぜなら高度に工業が発達していたから資源が必要だった。

(マリーバランゲ); 日本人全員に質問。何故日本は戦争を始めたか天皇の意図を調べましたか？あなたは戦争をした天皇の目的を自問しましたか？

(小国さん); 私の知る限り日本はロシアを恐れ、朝鮮半島を守った。そして中国ほかの国々を侵略。アメリカも中国をほしかったから戦争になった。共産主義に関しては考えていなかったと思う。

ベティー・リスティノが大東亜共栄圏を地図により説明する。

韓国の英語留学生 モナ・オーさんの話の要約

朝鮮人として私の国には日本と競争をする習慣があります。どうやって私たちはその歴史を克服してゆけるのでしょうか。歴史の授業で日本による占領の詳細を学ばねばならなかった。いかに権利を失い日本に占領されたか。植民地支配36年間苦しんだ。3つの時期の初めが暴力と征服でひどい苦しみを経験し、大移動があった。そして戦争が始まり日本は韓国の資源全部を持って行った。韓国名、韓国語、韓国文化を皆奪われ、17歳以上の若者は日本兵にさせられた。若い女性は性の奴隷にさせられ、日本はまだ謝罪をしていません。戦後朝鮮は南北に分断されアメリカから占領された。また小さい

ときから日本植民地時代の怖いドラマを見て育った。薬品開発の人体実験が繰り返し放映された。しかしバギオでたくさんの日本人にいったら、日本人に興味を持つようになった。

(今泉) ; 私は韓国人と話すときにいつも、私たち日本人は戦争のことを何も教わっていない。日本人は朝鮮が 36 年間日本の植民地だったことを知らない。

(日本人女子留学生) : 私も知りませんでした。

(今泉) : 台湾が 50 年間日本の植民地だったことも日本人は知らない。韓国人コミュニティの人たちは皆さん驚いていました。

(モナさん) : 私たちが日本人に謝罪を望まないとしても、日本人は戦争の歴史を考え語り継がなければいけないが、日本人は何もしていないから、戦争のことを話すことも不可能なんです。

(ベティー) ; 昨年のフォーラムで韓国人学生が、韓国側にも日本側にも開かれているフォーラムはまだどこでも開催されてないとこの会を感心してました。

台湾の東海大学 古川ちかし教授のビデオメッセージ

台湾東亜歴史資源交流協会から皆さんの努力に対し支援を送ります。植民地主義と戦争は依然私たち東アジアの社会に暗い影を落としています。そろそろ私たちの物語と歴史を取り戻し、一緒に再構築する時期が来ていると思います。私はあなた方の努力がその重要な発展の一翼を担うと信じています。

ジミー・フォン教授によるカバヤンの虐殺に関するビデオ取材の報告の要約

戦争末期にカバヤン村マナンチュンで起きた日本軍による虐殺の話仲間村人と一緒に話した。当時アメリカ軍のいる方に避難勧告が出ていたが、逃げてきつと食料がないと思い、無視して家にとどまった。勧告通り非難した女子供を含む 21 人が日本軍に見つかり、ゲリラ容疑で全員崖で銃剣を刺され落とされた。子供は宙に投げて銃剣で刺した。生還者が 3 人

いたが今は死亡し、NHK の基準で言えば直接証言者なしで取り扱ってもらえない事件になった。

カバヤン出身の地元ミュージシャングループ、「アギ」によるその虐殺を歌った歌“ESCAPE FROM OBLIVION”などを歌うミニコンサートで終演

参加者たちは歓声を上げ歌を聴き、コンサート後に写真撮影大会となる。

活動の成果

今回の慰霊祭及びフォーラムにはフィリピン大学リカルド・ホセ教授に参加していただき、日本軍占領の実態とその真意をお話いただきたかったのですが、お出でいただけませんでした。2 月に行われたマニラの慰霊祭でお会いしたときには、バギオ行きに大変乗り気でした。しかし私があまりにも歴史を解釈するようなお願いをしすぎたせいか、教授からの連絡が途絶えてしまい、代わりに弟子である同大学バギオ校のフロレンド教授が話をすることになりました。日本は参議院選挙の前、歴史認識に関する話題も上っていました。

時同じくしてバギオの韓国人協会に参加を呼びかけて、何度か協会副会長や会長の事務所を訪ねていました。彼らはしきりに、こんなことをやって年配の日本人から叱られないですか…と何度も言われました。当日は韓国人会の誰かを参加させると言うお話でしたが、当日午後になって韓国系新聞の記者とカメラマンが副会長と一緒に来て、取材だけして帰って行きました。また日本人会の会長さんは、会長としてではなく個人として参加してくださいました。日本人会の年配の会員の方々にもお誘いしていたのですが、残念ながらどなたも参加されませんでした。昨年韓国人学生が発表した、箇条書きにした未解決問題、政府の公式見解のような話をまたされるのが気に入らないようで、「韓国人にこんな勝手な話をさせる会には参加しない」と言って来てくれませんでした。しかし今回の報告書を多くの人々が読んでくだ

さり、フィリピン人が台湾人の話を聞き、台湾人も韓国人の話を、韓国人も日本人の話を聞き、皆さん少しづつ少しづつ他国の観点を理解し、当時のアジア各国の歴史観を考えてくださっている手ごたえを感じています。

つい先日9月9日にフィリピン大学バギオ校歴史学部が主催し、昨年12月に来てくださらなかったリカルド・ホセ教授のオープン・レクチャーが突然開催され、フロレンド教授から招待されました。主題は「バギオの日本軍占領」でした。ホセ教授は、昨年6月頃バギオにいらして私たちのフォーラム参加を約束してくださったときと同じように、アテネオ大学歴史学教授の奥様とご一緒にお二人で会場に現れました。私がすぐに挨拶をすると、去年は参加できなくてすみませんでした、と言われました。私は去年の報告書を渡すと、奥様はすぐに座って読み始めました。講演の内容は、真珠湾攻撃が行われた12月7日8日の詳細なアメリカ側の記録を解説し、チェン医師が話したのと同じ、バギオの日本軍による見せしめの殺戮の話がありました。アメリカ軍によるバギオの無差別爆撃の時、山下大将はバギオの地下トンネルに避難して無事だったという話など、興味深い詳細な話を2時間途切れなくお話になりました。

今後の課題

昨年日本軍が最後に終結した山奥の村に行き取材をしたところ、日本兵たちの死体が累々と荒野一面にあったと話をしてくれた老人が一人だけ生き証人でした。ほかの村でも、日本軍の虐殺の直接目撃者はすでに亡くなり、当時の又聞き証言者すらやっと一人見つかるかどうかと言う状況でした。もしその人たちが亡くなると、後は息子や孫世代の又聞き証言のみになり、益々信用度の低いものになってしまいます。今のうちに、せめて当時に生きていた又聞き証言者から話しを聞いておかないといけません。そのための調査取材が急がれます。

この慰霊祭も3回目を終えて、様々な事が見えてきたように思います。台湾や韓国の人々にとってもっとも重要な近代史の出来事は、大日

本帝国の植民地支配でした。フィリピンの日系人たちは日本人の血が混じっていると言うだけで、戦中も戦後も苛烈な体験をしました。中国系フィリピン人のチェン医師は、日本の大東亜共栄圏構想の理念は素晴らしいもので、それまでに西洋列強に苦しめられてきたアジア人を真に鼓舞した。日本はアジアで唯一工業化に成功した国で、西洋列強のように資源が必要だった。しかし残念ながら日本軍のやり方は良くなかった。そうした様々な大変興味深い話を聞くことが出来ました。これからも話し合いを進めてゆくにあたり、特に日本人主催者の関与の仕方に気をつけなければならないだろうと考えています。バギオ在住の日本人の中にも様々な立場の方々がいて、将来はぜひお話を伺いたいと考えています。韓国の若者たちは日本帝国の侵略の歴史を十分に教えられてきたのに対して、日本の若者は何も教わっていませんでした。歴代日本の首相は謝罪をしています、多くの日本人はいったい何に対して謝罪しているのかすら分かりません。これだけかけ離れているギャップを将来どうやって埋めたら良いのか。まずそれを顕在化することから始まりました。この報告書を読んでくださった方が、その解決の方法を様々な想像してくださる事を心から期待します。この活動は、日本の立場を諸外国に肯定させようとするものではありません。また自国の近代史を自虐的に捕らえようとするものでもありません。私事ではありますが、この慰霊祭を始めた当初は、教わっていない歴史に向き合う恐怖と、日本人が何故こんなことをしてしまったのかと言う後ろめたさが常にありました。しかし日本人である自分が、積極的にこの活動を行う内に、自分が今現在の日本人であると言う、自分に対する自信を取り戻して来た様に思います。それは自己弁護から来るものが大きいかもしれませんが。しかしそれをまた弁護してくださるアジアの友人たちにも会えました。これはまさに戦後の日本人がひたむきに努力し、あらゆる形でアジアの国々にも分け与えてきた戦後日本人の努力のたまものであったと改めて気づかされました。こうし

てアジアの人々との関係の中から道を開いてゆくことが、今後の日本人に必要なことだろうと思えます。

今年の第4回慰霊祭とフォーラムはフィリピン大学とセントルイス大学と共に行うことになり、今年はマレーシアやシンガポールなど、もう少し多くの東南アジアの学生たちに参加してもらいたいと考えています。アジアのそれぞれの国々でどのようにあの戦争を学んでいるのか。またマスコミを通してどのように語り継がれているのか。それぞれの国の代表の話を共有し合い、その報告書をそれぞれの社会の方々に読んでいただき、様々な立場の違いを認め合い、理解しあって交流を深めて行けたらと考えています。

幸いにもフィリピンの若者たち、台湾も韓国も中国の若者たちも日本のアニメやキャラクターを好きな人が大変多く、学校で教えてもらった歴史とは裏腹に、現代の日本文化に大変興味を持った若者が多数いる事実があります。私が下宿している社会活動仲間の子供たちが見ている日本のアニメを観ていると、物語の中に人生哲学や倫理観が子供たちへの教訓として、時に巧みに、時には臆面もなく描かれているのに驚きました。それは嘘をつかない誠実さだったり、チームワークや協調性の重要性や友情を裏切らないすばらしさだったり、今の日本社会が忘れかけていることを、世界の子供たちは誰も教えてくれない特別なレッスンとして日本のアニメを観ているのでした。9月1日のバギオデーのパレードに日本人会会長はフィリピン人学生のコスプレ（アニメのキャラクターの着ぐるみやロボットの模型に入って変装する遊び）愛好者たちの参加を呼びかけ、約100人のアニメ・キャラクター姿の若者たちが参加しました。おかげで日本人会の行進はフィリピンの若者たちのコスプレ・パレードになり、韓国や中国人社会の観衆を驚かせました。この現象はフィリピンのみならず、世界の各地で起こっていると聞きました。ニッポンはアジアの若者たちに人気があるのです。そうだとするならば、私たち戦後の新しい日本人は、その声に答えな

ければならないと思います。アジア各国の人々が歴史教育やマスコミから学習した日本は戦前の大日本帝国のもので、それは124年前に発布された大日本帝国憲法に沿った日本で、今の日本とはまったく違う、いや違わなくてははいけません。そのことを日本人自身がはっきりと自覚しないとイケない。そのためにこの国際平和慰霊祭は有効だと考えています。

どうか日本社会のあらゆる方面の方々にご理解いただき、ご協力ご参加くださいますよう、心よりお頼みいたします。